

令和6年11月定例市議会

行政報告要旨

総社市

本日、11月定例会市議会を招集いたしましたところ、議員各位におかれましては、万障お繰り合わせの上ご出席くださりまして、誠にありがとうございます。また、日頃から市議会の皆様には、議会運営に格別のご配慮を賜り、重ねてお礼申し上げます。

### 1) 市民に寄り添う日本一優しい市役所の実現に向けて

現在建設中の新庁舎は、完成に大きく近づいており、いよいよその姿をあらわにしてまいりました。来たる4月21日の開庁に向けて準備を加速してまいります。新庁舎の一番の目玉としては、まさに玄関口となる1階フロアに、あらゆる手続きや市民の要望、相談事などを受け止めるワンストップ体制を整備してまいります。これに伴い機構改革を実施いたします。私が選挙期間中も市民の皆様に切に訴えてまいりました、日本一優しい市役所の実現を、より具体的に進める部署として、現在の市民生活部を改変し、「あたたか市民部」を新たに設置いたします。この「あたたか市民部」では、完全ワンストップを実現するための核となるワンストップ課

に加え、日本一優しい市役所推進課、デジタル推進課、外国人や町内会を所管する人権・まちづくり課などを配置し、AIやデジタル化を活用して、市民が利用しやすい環境を作ることにより、業務の効率化や座席のフリーアドレス化による職員にも優しい市役所をめざします。

また、2階には社会福祉協議会と保健センターの機能を備えた、市民の福祉に関わる様々なニーズに応えるフロアにすることで、利用しやすい環境を整えるようにしております。

4階には高度な防災システムを導入した災害対策本部用の部屋を設置することで、より強固な危機管理体制を構築し、市民全方位に対して、優しく、安心を提供できる市役所を実現してまいります。

## 2) 市民に愛される新しい市役所に

また、現在新庁舎の見学会を実施しているところであります。大変好評で子どもから高齢者まで総勢1,100名の皆さんにお越しいただく予定となっております。特に子どもたちには、建設中という早い段階から新庁舎に触れていただく

ことで、総社市への愛着を感じ、将来に渡る郷土愛の醸成につながってほしいと考えております。その一端として、新庁舎には、各地域の特色を取り入れており、例えば、新本小学校区の間伐材を使った椅子、テーブルの設置や、平成30年豪雨における下原災害時のアルミニウム破片展示のほか、先般、文化功労者に選ばれた、高木聖雨先生による市庁舎看板の揮ごうや、難波聖爾先生の彫刻展示など、地元の歴史や文化に触れる機会を増やすことで、生涯にわたる郷土愛を育むことができると考えております。

また、東側の議会棟1階には、いわゆる多目的ホールを設置いたします。市の業務だけでなく、市民の皆様に参加してもらえる講演会やミニコンサートなどのイベントにも活用できるホールとなる予定です。このホールについては、市民の皆様により親しみを持って利用してもらえるよう、その名称を公募により決めたいと考えております。新庁舎は、「市民に身近で愛される庁舎」となるべきものと考えており、多く市民が集うホールについて、市民自ら名前を考えてもらうことによって、新庁舎への愛着を増すきっかけになればと思

います。

### 3) 能登支援の継続的实施

次に、1月2日から続けております、能登支援についてご報告させていただきます。総社市では、1月1日に発生した能登半島地震の被災地に対して、これまでに職員の派遣や災害物資の支援、そして寝袋プロジェクトやテントプロジェクトなど様々な支援を行ってまいりました。

さらに、9月21日の輪島市の豪雨災害を受け、新たな合同プロジェクトである「輪島市野菜支援プロジェクト」を開始いたしました。輪島市では、地震により家や仕事を失うだけでなく、豪雨災害の影響により畑が流され、高騰する野菜を手に入れることに苦慮している住民が多くいます。苦しむ輪島市民のために、野菜を無償で提供することで、輪島市民が笑顔を取り戻し復興への歩みを進めていけるよう、総社市のほか志を同じくする10の自治体が集まりNPO法人ピーク・エイドと連携し、実施するものです。

去る11月23日に、私自身、輪島市を訪問し、本プロジ

エクトに対する思いと、今後の継続的支援についての思いを共有してきたところでもあります。能登の報道が少なくなることで、残念ながら多くの方は復興が道半ばであることを忘れがちになってしまいます。こうした現実を直視し、現地で助けを求める人に寄り添う、地に足のついた継続的な支援を実施したいと考えております。

#### 4) 環境学校の完結と山の中の環境留学のスタート

また、10月31日には15回目となる総社市・野口健環境学校を開催しました。今回開催した総社小学校で、市内全15校での環境学校を終えることができました。本市の子どもたちの成長に尽力していただいた野口健さんには心から感謝しております。今後は、環境教育の次なるステージとして、昭和五つ星学園での山の中の環境留学をスタートしてまいります。来たる12月2日には、実際に山の中で森林伐採や植樹を体験し、森づくりを学ぶ体験型環境教育を実施します。名誉校長である野口健さんのお力をお借りして、地元の自然環境に興味を持ち、自分にできることを考え行動できる、

未来を切り拓く子どもの育成をめざしてまいります。

#### 5) 8月議会での検討について

ここで、8月議会での検討事項について、その結果をご報告いたします。

山田議員から、市役所の歴史を市民と共有できる展示をしてはどうかとのご提案がありました。これについては、新庁舎建設現場見学会においてパネル展示を実施しております。

また、岡崎議員から、きびじアリーナへのエアコン設置の考えはどうかとのご質問がありました。これについては、令和7年度から8年度での設置を目指し、本議会にて補正予算を上程させていただきます。

また、山名議員から、児童発達支援事業等の支給日数を見直してはどうかとのご提案がありました。これについては、10月1日に相談支援事業所に対し、「原則5日」に縛られることなく、適切な支給日数の給付に努めることを通知しました。また、新規サービス提供事業所の開設について、総社市側の相談体制が確立していることを共有しております。

また、頓宮議員から、健康メッセージ等を定期的に発信してはどうかとのご提案がありました。これについては、令和7年度からの実施に向けて、SNSの活用や、媒体等について検討中でございます。

昨今の情勢から、市民の情報源としてSNSの優先順位が非常に高まってきていることを実感しております。これまで本市では、広報紙やホームページなど様々な手段で市民に対する情報を発信してきましたが、正直なところSNSにおいては苦手分野であると言わざるを得ません。時代に乗り遅れることなく、市民との距離をより近づける手段として、SNSを活用した情報発信を行うことにより、真に日本一優しい市役所を目指して全力を尽くしてまいります。

一昨日に公表された「住み続けたい街ランキング」では、岡山県下27市町村では昨年の2位から1位に上がり、中国地方54市の中でも4年連続で1位となりました。議員各位、市民の皆様のご尽力により、総社市は歩みを止めることなく「日本一優しいまち」に向け、着実に前進している成果が現

れていると考えております。

議員の皆様をはじめ、市民の皆様におかれましても、これまでと変わらぬご理解と、ご協力をお願い申し上げ、私からの行政報告とさせていただきます。